

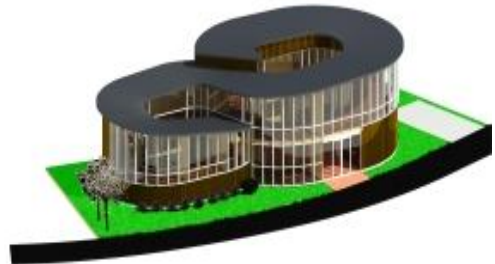
行徳鳥獣保護区で活動しています！

中村 麻衣

初めまして、千葉県柏市在住の中村麻衣と申します。2019年夏に入会させていただきました。生き物好き、観察好き、キノコ好き、キヌコ好きです。柏市近辺の公園や緑地と、千葉県市川市の行徳鳥獣保護区をフィールドとしています。よろしくお願い申し上げます。



鳥観察舎は、昭和54年に建設、平成27年に老朽化のため閉鎖されました。今年7月、新たに市川市立の行徳野鳥観察舎がオープン予定です。



市川市行徳野鳥観察舎完成イメージ
(市川市ホームページより)

行徳鳥獣保護区ではボランティアの生物調査班(植物班、昆虫班、哺乳類班、キノコ班)が活動しています。2017年にキノコ班を立ち上げました。月に1~2回の調査と、糟谷大河先生(慶応義塾大学准教授)を講師としてお招きし、一般参加者を募って年に1~2回の観察会を行っています。活動は千葉県環境財団の助成金をいただいて行っています。

行徳鳥獣保護区は東京湾の最奥、市川市新浜にあります。昭和50年代に、失われゆく東京湾の干潟環境を保全するために、人工的に造成されました。隣接する宮内庁新浜鴨場と合わせ、83ヘクタールが行徳近郊緑地として保全されています。

保全の中心を担ってきた千葉県立行徳野

保護区は、年間200種を超える鳥類が集まることから「野鳥の楽園」と呼ばれています。泥干潟とヨシ原だった保護区には、黒松を中心に、鳥たちが持ち込んだ種が芽吹き、小さな森ができました。生活排水で真っ黒に汚れた水を水車で引き込み、浅い人工の池や田で陽光と空気に触れさせることにより、水が生き返り、生き物を育むことのできる環境を作り出しています。今ではさまざまな希少な生き物も生息しています。

保護区には、クロマツや海浜性の樹木とエノキやサクラなどを中心に、アズマネザサの森、ヨシ原など狭いところにさまざまな植物があります。調査が及んでいるのは保護区の3分の1にも満たない範囲ですが、現在まで

に100種前後のキノコと出会うことができました。不明種が非常に多く、調査は難航しております。

ゆいいつ鳥との関係がわかっているのがキツネノワンです。鳥が持ち込んだタネからヤマグワの木が育ち、そこにキツネノワンが発生しています。鳥獣保護区という場所ですので、他の生き物とキノコのかかわりが分かると面白いなと思っています。



キツネノワン 行徳鳥獣保護区の下にて
(2017年4月13日)

多くは珍しいキノコではありませんが、糟谷先生が保護区内で日本新産種のヒメシロフクロタケ *Volvopluteus earlei*※を発見(以下参照)。また、2018年9月の観察会では、カヤバノクヌギタケ(池田仮称) *Mycena* sp. を発見していただきました。今後の研究の進展が待たれます。

※ 糟谷大河・丸山隆史・池田裕・布施公幹・保坂健太郎, 2018, 日本新産種 *Volvopluteus earlei* (ハラタケ目, ウラベニガサ科), 日本菌学会会報 59: 47-52.

私たち行徳キノコ班は、キノコ探しを楽しみ、調べることを楽しみ、「発見し、知ること」の楽しみを地元の子どもたちに伝えることを楽しんでいます。定例調査や観察会のあとは、行徳近辺の飲み屋さんで生き物談義に花を咲かせています。随時、調査員募集中です。現在月2回(毎月第1土曜日と第3木曜日)定例調査を行なっています。ご興味のある方のご参加を心よりお待ちしております。

<連絡先> kvgwannyan@ybb.ne.jp (中村)

□

--*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

【解説】●日本新産種 ヒメシロフクロタケ *Volvopluteus earlei*

ヒメシロフクロタケの和名は、子実体が小型で白色を帯び、柄の基部に袋状のつぼを持つことに由来する。本種の子実体は全体的に白色を帯び、かさが直径50mm以下と小型である点、担子胞子の長径の平均値が12μm以上である点、側シスチジアを欠く点、そして縁シスチジアにしばしば嘴状突起を持つ点により特徴づけられる。シロフクロタケは本種と類似するが、子実体がより大型であり、担子胞子がより大型で細長いこと、側シスチジアを豊富に有すること、縁シスチジアは通常、頂部の嘴状突起を欠くことで区別できる。

ヒメシロフクロタケは赤道付近の熱帯から北半球の温帯にかけて広く分布する。日本では、行徳鳥獣保護区のほか、新潟県柏崎市の海浜でも採集されている。ヨーロッ



ヒメシロフクロタケ

本種は新潟と千葉で採集された標本に基づき2018年に日本新産種として報告された。(新潟県柏崎市, 2017年8月20日)